

青柳ルート of 今後と評価基準について（案）

■ 1 今回の車内アンケート結果（資料 2 参照）

今回の車内アンケートでは、利用者の年齢層についての質問項目を、60 歳以上 90 歳までを 5 歳おきに分けた。最頻値は 75 歳から 79 歳、80 歳から 84 歳が 11 人ずつであった。また、65 歳以上という回答が 75% を占めた。

自宅から最寄りの停留所までの所要時間を質問したところ、徒歩 4 分以内が半数以上を占めた。

一方、一回 300 円でも、一時間に一本でもいいから運行を継続してほしいとの回答もあった。

■ 2 利用者人数の推移について（資料 3 参照）

利用者は前年度比（平成 28 年度）と比較して増加傾向である。ただし、平成 29 年度の利用者実績は平成 26 年度当初の目標利用人数であった、「一日当たりの利用者が 70 人以上」に達していない。

（資料 2）平成 30 年度の列では平成 28 年度から平成 29 年度の利用者増加率から同様の増加があった場合の予測値を記載している。

■ 3 「利用者一日 70 人」という数字について（参考資料 1 参照）

平成 26 年 4 月から 3 年間実施した試行運行開始当初は、A 評価「一日当たり 70 人以上、収支率 30% 以上」を本格運行へ移行する評価基準とし、B 評価「一日当たり 50 人～70 人、収支率 20% 以上」をさらなる試行運行の継続の基準を設定していた。

なお、平成 28 年 12 月時点での評価では、青柳ルートは B 評価に達しなかったものの、利用人数のみを見ると一日当たり 50 人に達する月もあり、利用者アンケート、住民説明会等を踏まえると高齢者等への外出に寄与していることがうかがえたことから試行運行を継続することに至っている。

（まとめ 事務局案）

■ 4 青柳地域に求められる交通サービスと今後の青柳ルートの評価基準

平成 30 年 1 月現在、青柳ルートの利用者の割合が多いのは、高齢者（特に後期高齢者）が主である。高齢者以外の交通手段については、基本的に徒歩、あるいは自転車、自家用車で事足りていると考えられる。また、利用者が増加傾向かつ試行運行開始当初（平成 26 年度）に「高齢者、しょうがい者等の外出に寄与しているかについても考慮する」ことをうたっていることから、今後も何らかの形で運行を継続する必要があると考える。

以上のことから、高齢者が主たる利用者であることもふまえ、一日当たり 70 人を利用者の目標とし、利用者の状況や地域の貢献度等を総合的に勘案して判断していく。定時定路線型の運行を継続していくが、引き続き評価を行い、運行形態の見直しの検討を行っていくものとする。

以上